

第1回沖縄交通リ・デザインシンポジウムを開催しました!!

空心

仕事の
心

沖縄交通リ・デザインとは?

首里地区は、道幅が狭いにも関わらず、中南部の市外から那覇の中心地へ向かう通過地点であることや、坂が多いため住民の自家用車による移動が多くなっています。その為、モノレールの駅や市内外のバス路線が通っているにも関わらず、公共交通機関が利用できていないのが現状です。

首里地区におけるライフスタイル転換に向けた取組（内閣府沖縄振興局・沖縄総合事務局）

沖縄では、通勤、通学、買い物など自家用車を中心のライフスタイルがこれまでの成長を支えてきた一方で、慢性的な交通渋滞による時間損失・生産性低下、著しく低い公共交通の分担率に伴う環境の悪化、二次交通の利便性の低さによる観光客の沖縄離れなど、このままでは、沖縄の生活・社会、ビジネス、観光の質の低下につながることも懸念されています。こうしたライフスタイルからの脱却を図るため、経済界、交通・観光関係者、行政等が一体となって「沖縄のありたい姿」の実現に向け、「ライフスタイルの転換」と「効率的な移動環境の整備」を車の両輪として、沖縄の交通や都市のリ・デザインに取り組み続けています。

沖縄では、通勤、通学、買い物など自家用車を中心のライフスタイルがこれまでの成長を支えてきた一方で、慢性的な交通渋滞による時間損失・生産性低下、著しく低い公共交通の分担率に伴う環境の悪化、二次交通の利便性の低さによる観光客の沖縄離れなど、このままでは、沖縄の生活・社会、ビジネス、観光の質の低下につながることも懸念されています。こうしたライフスタイルからの脱却を図るため、経済界、交通・観光関係者、行政等が一体となって「沖縄のありたい姿」の実現に向け、「ライフスタイルの転換」と「効率的な移動環境の整備」を車の両輪として、沖縄の交通や都市のリ・デザインに取り組み続けています。

この長年の課題を解決するため、昨年から首里地区を対象に内閣府沖縄振興局と共に進めていく取組として、首里高校1年生と銀行3行の職員を対象に、車以外にも様々な通勤・通学手段があることを認識してもらう機会として、今までの通勤・通学スタイルを一定期間見直し、公共交通機関を利用して通勤・通学をする実証実験を行いました。

シンポジウムでは、琉球大学の神谷准教授の基調講演や県内の取組事例紹介を行いました。沖縄県企画部交通政策課、沖縄銀行、特定非営利法人OTTOP、KPMGコンサルティング（名護スマートシティ推進協議会構成企業）による発表のほか、実証実験に参加した首里高校1年生が登壇し、特別発表を行いました。また、「ライフスタイルの変革に向けて」というテーマで行われたパネルディスカッションでは様々な視点から沖縄の交通課題解決に向けた意見交換が行われました。

お問い合わせ先
運輸部 企画室
☎ 098-8666-1812



特別発表で登壇した首里高校1年生



シンポジウムの様子

方々の参加も多く、今後の沖縄の交通課題解決に向けて前進できた場になりました。引き続き運輸部は沖縄の交通や都市のリ・デザインに全力で取り組んでまいります。第2回のシンポジウムにも是非ご参加お願いいたします。